

村勢要覧  
きじまだいら  
Kijimadaira Village



木島平村勢要覧  
発行／木島平村

これからの

農村を生きる

— みんなで 楽しみを つくりだす村 —

木島平村＝農村。

農村に生きていくということが  
どういうことなのか。

村民の皆さまと今一度見つめ直していきたい。

そして、自らが原動力となり、

地域を、村を、社会を動かしていくという思い。

その想いの塊が、

村の新しいカタチを作っていくと信じています。

それが、木島平村の目指す村づくりです。

## そだてる

「未来と安心をそだてる」

今後の未来も子どもを育てながら  
安心して生きていける村を目指し  
ます。

子育て／幼児教育／学校教育／生活基盤／健  
康／福祉／地域医療／生活安全



## つくる

「産業と仕事をつくる」

村民が支えあいながら、地域の資源  
を生かした産業と仕事をつくりだせる  
村を目指します。

農林業／商工／観光／木島平ブランド／6次  
産業／第3セクター／移住定住／情報通信



木島平村の将来像を実現させる

## 4つの基本方針

村制60周年を迎える木島平村。私たちが積極的に挑戦を続けるためには、新村第1次～5次総合計画までの  
積み重ねを礎とし、楽しみながらより良い村を作り上げていく必要があります。第6次総合振興計画のテーマである  
「これからの農村を生きる みんなで楽しみをつくりだす村」を実現するため、具体的な4つの柱を立てました。  
この4つの基本方針は私たちに導く道しるべとなり、目指すべき将来像への歩みを後押ししてくれる支えになります。

## まもる

「自然と文化をまもる」

美しい自然と豊かな文化を維持す  
ることで、誇れる村を目指します。

自然エネルギー／景観形成／循環社会／文化



## つなげる

「人と地域をつなげる」

人と地域をつなげることで、助け  
合いながら楽しく過ごせる村を目  
指します。

生涯学習／若者連携／集落対策／人権



# そだてる

子育て／幼児教育／学校教育／生活基盤／健康／福祉／地域医療／生活安全



## 未来はここから 木島平村が育てる人と心



明るく安心できる  
子育てを

無邪気な笑顔、無心に遊ぶ姿  
：子どもひとりひとりが村の  
財産であり、未来への希望。そ  
れぞれの個性や才能を伸ばしや  
かに育んでいけるよう木島平  
村ではこれまで様々な子育て  
支援策を推進してきました。

中でも注目を集めているのは、  
子育て世代のお父さん・お母さ  
んへのサポート体制。経済・生  
活面だけでなく精神面にも不  
安を抱えることの多い家族の  
ためにおひさま保育園内に「子  
育て支援室」を開設し、保護者  
からの相談を受け付ける支援  
員を常駐させています。また、  
保育園入園前の乳幼児や保護  
者同士のふれあいと交流の場  
になるプレイルーム「おひさま  
広場」を開放、子育てに関する  
講座などを通じて助言や情報  
提供を行う「おひさま教室」も  
実施しています。さらに、全村  
をあげて子どもの成長を支え  
ていくために「地域子育て塾」  
を開き、「子どもの健康・発達・コ

コミュニケーションなど幅広い  
分野について学ぶ場を提供。保  
護者世代からシニア層まで家  
族と地域が一体となった子育  
てを促しています。

### 可能性を伸ばす 木島平型教育

子どもたちにとっての学校は  
学びの場であると同時に、多く  
の仲間と出会い、数々の経験を  
積み成長の場。本村では3つの  
小学校を統合して木島平小学校

が誕生したのを機に「ふるさと  
木島平を心に刻む教育の実践」  
と銘打ち、小中学校における学  
びの共同体を形成し、質の高い  
教育を追求してきました。

そうした『木島平型教育』の  
柱となるのが――

- 義務教育9年間をひとつの  
スパンとしてとらえる「小中  
一貫教育」
- 対話型コミュニケーション  
を基盤としてひとりひとりが  
分かるまで互恵的に学び  
合う「協同の学び」



「農村」という広大なフィールドで、「心の豊かさ」という  
授業を受けています。子どもたちの可能性は無限大です。

### のびのび子育てができるのは 木島平村だからこそ



平野 藍さん(39歳)  
春 ちゃん(1歳)  
内山区

主人の転職を機に、12年に越してきました。二人とも長野  
には何の縁もない神奈川育ち。馴染めるか不安でしたが、  
実際に住んでみると近所の皆さんが気にかけてくださって、  
思いのほかラクに受け止めてくれました。実は、それまであまり子  
どもが欲しいと思わなかったんですが、こんなに良い環境なら  
子育てもしやすいかなと。おひさま保育園で先輩ママに相談  
できたので、妊娠中から助かりました。木島平は本当に良い  
ところ。将来、この子も「ここに生まれてよかった!」そう思っ  
てくれますように…。





おじいちゃん、おばあちゃんが元気な姿があちこちに。村を照らす太陽のようなお年寄りが木島平村にはたくさんいます。

## 笑顔の輪は 世代を超えて

### 子どもと大人をつなぐふるさと愛

少子高齢化が進む現代、子どもの育成は地域全体が向き合うべき重要なテーマです。木島平村においては、自然や農業の体験学習を通じて幼い頃よりふるさとへの理解と愛情を深めていくこと、また、お年寄りも含めた地域の大人たちとの相互理解を図ることも、子育て・教育と並ぶ大切な課題として認識されるようになってきました。

域密着型教育。小学5年生を中心に行われている「全校米づくり」は、本村の主産業である農業を自ら体験することで長年培われてきた伝統や技術を理解し、先生・生徒同士の結びつきを強めると同時に、働く大人世代とも触れ合うことができます。貴重な機会となっています。中学校では総合学習を利用して「輝け未来塾」を開催。平成27年には生徒らの立案をもとに、地域の方々を講師に招いて『伝統の美・内山和紙』『羽ばたけサシバ、木島平の空にー』など木島平村ならではの産業文化、自然といった幅広いテーマ



地産地消の給食をはじめ、木島平村では食育を推進しています。豊富な水源、たわわに実る稲。そのすべてが木島平村の宝物です。子どもたちは自然に、自然の恵みのありがたさを学んでいます。

●木島平村が大事にしている農村の価値と思念を教育の場にも広げ、地域と共にある学校づくりを目指す「コミュニティ・スクール」  
——この3つです。  
『木島平型教育』を通じて子どもたちの能力と可能性を最大限に引き出すのはもちろん、関わる大人たちの成長も促すことで村民全員の意識向上に役立っています。

### 元気のもとはおいしい食育に

ファストフードやインスタント食品の日常化、また偏食や朝食欠食など食生活の乱れが子どもの健康を損なうとして問題視されている昨今。木島平村では教育の一環として早い段階から「食育」を進め、地産地消の給食を実施してきました。現在、給食米は全て木島平産のもの

のを、また野菜もできるだけ村内生産のものを使用。安全で健全な給食を提供することで子どもたちの成長を支える一方、子どもたちの地元農家への感謝の気持ちや育み、地域食材の尊さや信頼性、村の主産業である農業の重要性を学んでもらえるよう努めています。



食育は「作る」ところから学びます。育てたものを収穫して食べる。当たり前のことを当たり前にしない心を育てています。



年々高齢化が進む木島平村は道路整備や交通網の整備も必須事項。村民の足となるデマンドバスが村内を大活躍中です。

「和敬会」による運動の場の確保、さらには買い物支援や居場所づくりなど住民が主体となった支え合いと助け合いの輪が広がっています。

**暮らしの基本は安心と安全に**

平成26年9月の御嶽山噴火、同年11月の長野県神代断層地震など、長野県は幾度となく自然災害の脅威と直面してきました。大事なふるさと、そしてかけがえのない家族や生活を

守るためにも地震や豪雨、火災などへの備えは欠かせません。木島平村では様々な災害に対応できるよう消防団をはじめとした自主防災を組織化。高齢者や障害者など要配慮者の状況把握、避難訓練の実施、避難経路や通学などの安全点検を行っています。災害時にあつては屋外放送や無線、広報車による情報伝達を徹底。地区ごとに避難所を指定し、住民の安否確認などが速やかに行われるようシステムづくりを推進しています。



災害に適切な行動が取れるように、日々の訓練を欠かしません。木島平村の線の下力持ちです。



お年寄りの元気な姿を守るため、健康長寿を目指す制度や施策を構築。日頃から健康診断や啓蒙活動を行っています。

いくつになってもいきいきと健やかに過ごしたい…それは年齢・性別を問わず、誰もが抱く願い。65歳以上の高齢者の占める割合が村民人口の30%を超える木島平村としては、病気を患う前の「未病」の段階で

**いきいき長生き 健康自慢**

で全8講座を開き、地域密着型教育の新たな礎としています。

健康チエック、あるいは病気が深刻化してしまう前の早期発見と早期治療を促進するために様々な施策を展開しています。

高齢者をはじめ成人を対象としたものでは「ためして実践健康セミナー」を開催し、健康づくりに関する講座を通じて健康への意識の向上を促進。また、ひとりひとりの体調管理と生活習慣を見直す機会として特定健康診断の積極的な受診を呼びか

けています。

高齢化に伴い介護を必要とする人口の増加も懸念される昨今、健康づくりだけでなく村民全員が互助意識を持った地域福祉社会づくりも重要です。地域に向いて行う「いきいき広場」では高齢者と地域の人々とのふれあいの場をつくる。同時に、住民グループによるサロン活動や介護予防にも進達「ふるさとサロン」「夢広場」といった高齢者サロンの開設や

**この法被を見れば安心してもらえる 村民から頼られる消防団に**



山倉 勝さん(48歳)  
木島平村消防団 中部分団  
平沢地区

火災のほか地震や河川の氾濫、土砂崩れといった自然災害に備え、消防団では定期的に訓練を行っています。地区ごとの訓練のほか、村ぐるみの訓練も年に1回。いざという時のために防災意識を高めてもらう一方、消防団と村民の皆さん、また村民同士、団員同士の繋がりを深めたり、信頼関係を築くのに役立っています。災害は起こらないのが一番ですが、たとえ起きてしまっても、駆けつけた消防団の法被姿を見て「もう大丈夫だ」「安心だ」そう思ってもらえるような存在でいたいですね。



**この村でずっと幸せに暮らす そのためのお手伝いを**



大原 真由美さん(47歳)  
社会福祉協議会  
ボランティアコーディネーター  
中島地区

木島平村に嫁いで20年余。この村の人の温かさに触れる中、自分も人のために何かしたいと思うようになって。デイサービスで働きながらヘルパーと介護福祉士の資格をとりました。今はボランティアコーディネーターとして、ボランティアをしたい人とそれを必要とする人や施設を仲介しています。「いきいき広場」などに来るお年寄り、皆さん本当に元気！おいしい水とお米を食べているからなんだろうね。人生の最後まで幸せに、元気に過ごしてほしい、そう願いつつ毎日仕事をしています。





積極的に木島平村の魅力を発信していきます。農作物も農作物ができる過程もすべてが「木島平ブランド」です。

**うまい米は木島平の誇り  
農業を新しいカタチで発展させたい**



小池 雅章 さん(35歳)  
小池農園 農業  
南鴨地区

農業をしていて一番嬉しいのは、収穫の時。それと、米を食べた人から「うまい」「おいしい」と言われた時ですね。自然相手の仕事は、正直きつと感じることもあります。でも、代々受け継がれてきた水田を自分も守っていかなければと。子どもが生まれてからはその思いがもっと強くなりました。担い手不足など農家の現状を考えると、たとえ家族経営であっても今後は法人化が必要となるのではと考えています。それと同時に、農業研修生の受け入れなど村全体の新たな取り組みも重要だと感じています。



する、「有機JAS」に取り組む「有機米研究会」と県認証特別栽培米に取り組む「木島平米ブランド研究会」が、安心・安全の木島平米の栽培。また、食味の高い米だけを厳選した『村長の太鼓判』の販売を行っています。環境に優しく、かつ高品質でおいしい農産物を追求してきた結果、全国食味鑑定コンクールでは本村から毎年数多くの受賞者を輩出しています。一方、林業にも力を入れてきた木島平村。「日本一美しいブ

ナの森」と称されるブナの原生林があるカヤの平高原をはじめ、村内には見事な森林を有しています。自然界のバランスを保持しつつ、より良い林業を成り立たせるために森林管理署、地方事務所、森林所有者、森林組合、木材産業界関係者との間で合意形成を図りつつ集約化を推進。森林組合で策定する森林計画を元に持続的、計画的な森林経営を実践しています。また、子どもたちに自然や林業への理解を深めてもらえるよう「長

つくる

農林業／商工／観光／木島平ブランド／6次産業／第3セクター／移住定住／情報通信



人と自然がつくる 新しい産業のカタチ



良質と良心の証  
木島平ブランド

緑あふれる土地と清らかな豊富な水源は木島平村の誇り。基幹産業である農林業と観光の主軸となっているものも、そうした自然の恵みにほかなりません。

暮らしや経済の基盤である農業においては、有機の里づくりを進め、木島平米の特別栽培を推奨し、消費者に自信をもって提供できる安全・安心の「木島平ブランド」を確立してきました。現在、木島平村には農薬や化学肥料類を一切使用せず人と自然の力で作物を生産





圧倒的な自然が村の誇り。四季がはっきりと美しく移り変わる木島平村は毎シーズン訪れたい観光地です。



テナシヨップ「新鮮屋」をオープンし、木島平の新鮮で安全・安心な農産物の販路拡大に努めてきました。

また、これからの農業の振興と新しい雇用創出を目指して打ち出されたのが6次産業の推進。第1次産業である農畜産物の生産だけでなく、第2次産業である食品加工や第3次産業といわれる流通・販売まで、6次産業の象徴的事業として平成27年には「FARMUS木島平」が開設されました。

周辺の観光案内と情報発信を行う道の駅、農産物の加工販

売、レストラン、カフェ、交流ホールなど様々な施設と機能を備えた「FARMUS木島平」は、北陸新幹線開通後の村の玄関口ともなる一大産業施設。県内外からの集客を見込み、6次産業の拠点としてはもちろん、地域住民同士の交流、都市と農村の交流の場として大きな期待を担っています。

**光、風、温もり…  
すべてが観光**

農業と並ぶ木島平の主産業といえば、四季折々に違う楽し

## 木島平から全国各地へ 自信を持って届ける特産品の数々



久保田 則保 さん(59歳)  
農業生産法人  
株式会社あらた 代表取締役  
北鴨地区

会社設立のきっかけは農協の研修でキノコ栽培を学んだこと。今はキノコのほか野菜や果物を東京や大阪など都市部に出荷していますが、販路開拓には本当に苦労しました。木島平は半年近くが雪の下。休養期間が長い分、土地が肥えて良い作物ができる。味と質には自信があります。近年力を入れている食用ホウズキはジャムにすることで認知度が高まってきたところ。アスパラガスやズッキーニもそうですが、畑で採ってすぐ食べられる、無農薬で安心の特産品をもっとアピールしていきたいですね。



野島みどりの少年団「活動も行っています。」  
近年、農作物や自然林への被害が深刻化している有害鳥獣の対策として、狩猟免許取得・更新補助、猟友会活動の補助を実施。有害鳥獣を捕獲する組織の維持と狩猟者の育成を促すとともに、地域や個人で設置する電気柵の経費補助も行っています。

## 地産地消から 地産外商へ

県内はもとより県外でも木島平ブランドの農作物が広く認知され、農業の村として確固たる地位を築いている木島平村。しかしながら、高齢化や担い手不足による農業従事者の減少という問題を抱えていることも周知の事実です。そこで、平成12年に農産物直売所「たる川」、平成15年に調布市にアン

新しく木島平村のシンボルとなった道の駅「FARMUS 木島平」。農村の魅力の発信拠点として今後の活用が期待されます。



木島平産の農産物が集まる直売所「たる川」

調布市の木島平村アンテナショップ「新鮮屋」

「FARMUS 木島平」



黄金に輝く田園が美しい秋。豊かな原風景を守るためには村民の力が不可欠です。



スポーツも盛んな木島平村。豊富な自然を利用して、スポーツイベントの開催を頻繁に実施しています。

みを見出せる観光業。メジャーな大規模施設こそないものの、ブナの原生林や高山植物の宝庫として名高いカヤの平高原をはじめ平成の名水百選に選ばれた龍興寺清水、約10万本の大賀蓮が咲き競う稲泉寺、春と秋の年2回だけ姿を現す幻の滝・樽滝、夜には満天の星を望める絶景の露天風呂・馬曲温泉など、村内に点在する自慢の見どころや癒しどころが数多くあります。

観光スポットの整備はもとより県内県外への積極的な広報も観光振興の要。近年は首都圏からの集客を念頭に置いて信越9市町村広域観光連携会議や交流市町村でPR活動を展開し、観光ポスターやパンフレットを制作。平成28年には村内周遊を目的とした3次交通の本格運行を開始する予定です。また、増加する外国人旅行者にもスムーズに対応するべく接客研修、外国語のパンフレット・ホームページ制作に注力。木島平村における観光産業の新時代が始まりつつあります。

### 「ここに 住みたい！」 その声をもっと

木島平村の経済維持と発展を考えるうえで今後ますます重要な課題となるのが移住・定住の促進です。この地で生まれ育った若者たちがずっと住み続けられるよう、あるいは大学進学などでいったんは離村しても卒業後に戻って再び定住



収穫体験も木島平村ならではの観光資源。

できるよう、働く場の確保が急務となっています。

“住みたい県”調査では常に上位にランクインしている長野県には都市部や他県からの移住希望者も少なくありません。そうした移住希望者へ本村をアピールするべく県の移住定住施策「楽園信州」に加盟。

移住・定住者向けの雇用創出

とあわせて進められているのが住宅環境の整備です。新たな住宅を建設するだけでなく、村内の空き家を有効活用するために、売りたい・貸したい所有者と買いたい・借りたい利用者、双方の登録による“空き家バンク”を設置。提供された情報は木島平村のホームページで随時閲覧することができます。

# まもる

自然エネルギー／景観形成／循環社会／文化



いつまでも この景色を見続けたいから



**原風景を  
守ることは  
故郷を愛すること**

木島平村を語るうえで欠くことのできない豊かな自然。樹齢二百年以上のブナの原生林と様々な高山植物が自生する湿原を有するカヤの平高原、村のシンボルでもある雄大な高社山、また、山深く流れ出る樽川と馬曲川によって作られた扇状地の先端部には多くの湧水が見られ、生活用水としてはもちろん、農業や内山和紙の紙漉きなど各産業に使用されてきました。



地区ごとに行われる冬の風物詩「どんと焼き」。家族の健康と無病息災を願う伝統文化です。

しかしながら昨今、外来生物の増殖などにより自然の原風景が損なわれるとの危機感が高まっています。村の発展が自然と共にあった経緯を今一度胸に刻み、村民と各集落や行政が連携して自然保護と環境保全に努めることが求められています。

## 受け継ぐ伝統と 生まれる文化

弥生時代の鉄剣や土器が出土した根塚遺跡をはじめ大賀

蓮で知られる稲泉寺、街道沿いの石仏など歴史的な遺産に恵まれた木島平村。北信地方に古くから伝わるからす踊り、国際的なコンテストで入賞を果たした鬼島太鼓、また集落ごとの夏祭りや秋祭りなど伝統芸能の保存と継承にも力を注いでいます。

芸術文化協会の取り組みとしては村民参加の作品展や姉妹都市である調布市文化協会との交流会、芸術鑑賞会などの開催、絵画や音楽など幅広い分野の同好会・サークルのサポー

ト、夏祭りへの協力も行っています。また、農民芸術ふう太の杜では郷の家において様々な活動を展開。昭和レトロ食彩紀行や語り部交流会といった昔の民話と暮らしを今に伝える催しを開いて、毎回好評を得ています。



からす踊りや鬼島太鼓などの伝統文化と内山和紙などの伝統産業。守り続けたい伝統の形が村にはたくさんあります。

## これからも存続していきたい 伝統の「からす踊り」



市川 建治 さん(70歳)  
木島平村からす踊り保存会 会長  
市之割地区

「からす踊り」は北信地方一帯に伝わる民謡舞踊で、一説には戸隠山の修験道に端を発するものだったとも。木島平村では集落ごとに受け継がれてきましたが、1つの伝統芸能として後世に残そうと保存会が発足。村の無形民俗文化財にも指定されました。現在、会員は25名ほどで毎月2日に集まり、稽古をしています。夏まつりをはじめ老人ホームやイベントで披露することもある、なかなか好評です。からす踊りをずっと続けていくために、これからはもっと若い人たちにも参加してほしいと思っています。





村外との繋がりも村を豊かにする重要な要素。大学生を受け入れる農村版大学コンソーシアムなど、積極的に外との交流を深めています。

# つなげる

生涯学習／若者連携／集落対策／人権



人と人 地区と地区 すべての絆を大切に



地区おこしは  
村おこし  
みんな笑顔で

村内にある26の地区ではそれぞれの特色を生かしたテーマを掲げ、地区づくり計画が進められています。地区ごとの団結や活性化は村全体の連帯や発展の基盤となるもの。ご近所や隣組といった横のつながり、そして子どもからお年寄りまで世代を超えた縦のつながりを大切にするとともに、お互いを尊重できる差別のない村づくりを推進することも重要です。また、誰もが笑顔で暮らしを営んでいけるよう多くの村民が集い合える場を作ったり、気軽に交流できる拠点を整備したりし



## 学ぶ、体験する ザ・農村

て村民同士、また地区同士の相互扶助を実現していきます。

木島平村の未来のためには村民間のつながりだけでなく、他地域や他団体とのつながりにも大きな期待がかかります。東京都調布市と姉妹都市提携を結び、四季折々に交流イベント

トを催しているほか、平成23年よりスタートした農村版大学コンソーシアムも具体的活動のひとつです。コンソーシアムに参加しているのは金沢大学をはじめ東京大学、早稲田大学、富山大学などで、夏・秋・冬の3季にわたり合宿やゼミ、調査活動など多様な取り組みが行われています。主なフィールドとなるのは、村内でも特に少子高齢化が著しい糠干地区。大学生

に農村の現状を知ってもらおうと同時にキャンパス内ではできない学びや体験、村民や他大との交流など、有意義な時間と場を提供しています。参加する学生の中にはリピーターも多く、卒業後も地域おこし協力隊として木島平村と関わり続けている若者も。今後はこうした外部との交流の機会を積極的に活用して新しい村づくりを推進していきます。



受け入れる村も、訪れる学生も有意義で充実した取り組み事例。双方が農村の将来を考えるきっかけとなります。

# 1955

# 1967

新村建設計画

## 木島平村の誕生

- 1955 昭和30年**
  - 昭和三十年2月1日 木島平村誕生
  - 往郷地区に県下初の有線放送施設完成
  - 木島・中野線バス開通
  - 役場庁舎の新館増築
  - **森次郎氏、初代村長に就任**
  - 山口橋、永久橋に架け完成
  - 中学校特別教育兼寄宿舎完成
  - 可搬動力ポンプ6台導入
- 1956 昭和31年**
  - あさひ保育園新築
  - カヤの平牧場開設
  - **有線放送施設、全村に完備**
  - 上木島地区の上水道事業完成
  - 幹線道路(大沢～大橋線)完成
  - 北部小学校改築
- 1957 昭和32年**
  - 新農村建設事業指定される
  - 往郷地区上水道事業完成
  - **新村建設の実績を評価され内閣総理大臣賞受賞**
  - 中学校プール完成
  - 可搬式動力ポンプ3台導入
- 1958 昭和33年**
  - 穂高地区上水道事業完成
  - 中学校、産業技術指定校となる
  - 樽川、馬曲川の災害復旧事業完成(工費2億4000万円)
  - 向原畑地のかんがい工事実施



【昭和47年】平沢・馬曲地区にスクールバスが運行



【昭和45年】木島平民謡レコード化



【昭和47年】糠塚分校閉校

- 1968 昭和43年**
  - 林業構造改善事業が指定される
  - 第3スキーリフト完成
  - 須坂帝通、昭栄電子工業進出
  - 交通災害共済発足
  - 農業振興地域に指定
- 1969 昭和44年**
  - 7.6災害(水害)に見舞われる
  - 有線放送自動化
  - 青年団、再発足
  - 木島平地域湛水防除事業着工
- 1970 昭和45年**
  - 米の生産調整開始
  - 奥志賀スノー林道着工
  - 馬曲で温泉開発の調査
  - 村民保養所、野沢温泉村にオープン
  - 木島平民謡レコード化
  - 湯本安正村長、県町村会会長就任
- 1971 昭和46年**
  - 第4スキーリフト完成
  - **栄町区誕生**
  - 総合グラウンド完成
  - 近隣7市町村、広域市町村圏に指定される
  - 県道山ノ内部谷沢飯山線、全線舗装完成
  - 過疎地域に指定される
- 1972 昭和47年**
  - **戸立岩、糠塚両分校が閉校**
  - 岳北農産物総合センター完成
  - 清水平林道、全線開通
  - 村民運動会復活
  - 高社山麓で落雷により3人が犠牲
  - 振興山村地域に指定される
- 1973 昭和48年**
  - **村民会館完成**
  - 特別養護老人ホーム望岳荘、第1期工事完成
  - 岳北消防本部発足
  - 桜ヶ丘住宅団地造成
  - 小路水道水源拡張
  - 第5スキーリフト完成
  - 衛生センター、拡張第2期工事完成
- 1974 昭和49年**
  - 湯本安正村長、全国町村会副会長就任
  - **木島平村社会福祉協議会発足**
  - 山間地で4mを超す大雪
  - 芳川勝枝さん、中国から永住帰国
- 1975 昭和50年**
  - **村体育館完成(工費1億4500万円)**
  - **村花に「福寿草」制定**
  - 特別養護老人ホーム望岳荘、第2期工事完成
- 1976 昭和51年**
  - 農村総合整備モデル事業に指定される
  - カヤの平高原自然休養林オープン
  - 電話自動交換局完成、有線の公社電話接続廃止
  - 歯科診療所開業
  - わかくさ保育園閉園、通園通学バス「わかくさ号」運行
  - 除雪センター完成

### 木島平村60年の歩み

# 1968

# 1976

## 第1次総合振興計画 観光産業の発達



【昭和34年】第2代村長 湯本安正  
【昭和30年】初代村長 森次郎

- 1959 昭和34年**
  - 台風7号、15号による被害8605万円
  - **湯本安正氏、第2代村長に就任**
  - 中部小学校、第1期改築工事完了
  - **木島平民謡が誕生**
- 1960 昭和35年**
  - ふたば保育園新築
  - 樽川橋、永久橋に架替え完成
  - 中学校、産業技術教室完成
  - 第3期上堰水路改良工事完成
  - 道路整備用ダンプカー導入
  - 中部小学校、第2期改築工事完了
- 1961 昭和36年**
  - 初の空中防除(442ha)実施
  - 第2室戸台風による水害発生
  - 農業機械化ステーション設置
  - 馬曲の芳川英二氏一家、南米に移住
  - 行政事務改善に着手、行政機構改革
- 1962 昭和37年**
  - あいおい保育園新築
  - 高社山麓で開拓パイロット事業着工
  - 農業構造改善事業の計画地域に指定される
  - 3農業協同組合合併、木島平村農協誕生
  - 平和橋、永久橋に架替え完成
- 1963 昭和38年**
  - みずほ保育園、こぼと保育園新築
  - 大塚沖基盤整備事業(12.5ha)着工
  - **木島平スキー場オープン、スキーハウス完成**
  - 生活改善推進協議会、公営葬儀開始
  - 農林高校本館完成
  - 中部小学校第3期工事完成(工費637万円)
  - 特別豪雪地帯に指定
- 1964 昭和39年**
  - 第1スキーリフト完成
  - 農業構造改善事業着工(工費9500万円)
  - 農業共済組合を村に移管
  - **消防団、日本消防協会から表彰旗を受ける**
  - 平沢橋、永久橋に架替え完成
  - パイロット開拓事業の工事完成
- 1965 昭和40年**
  - 第2スキーリフト完成
  - 村民健康管理検診事業開始
  - 農林高校体育館完成
  - 岳北衛生施設、火葬場施設両組合発足
  - 木島平村指定金融機関、農協に設定
- 1966 昭和41年**
  - **役場新庁舎完成(工費4300万円)**
  - 池の平地区に水道敷設
  - 飯山市と一部事務組合による衛生センター開設
  - カヤの平高原で全国学生キャンプ大会開催
  - 松地地震で戸立岩分校にプレハブ校舎建設
- 1967 昭和42年**
  - 史上最高の大豊作で米4万俵を出荷
  - 村内3小学校のプール完成
  - **大塚沖土地改良事業完成**
  - 村直営舗装工事開始
  - 広域行政で火葬場建設



【昭和30年】三村合併により、木島平村誕生



【昭和31年】有線放送施設、全村に完備



【昭和36年】初の空中防除(442ha)実施



【昭和47年】村民運動会復活



【昭和50年】村歌・村花制定



【昭和41年】役場新庁舎完成



【昭和38年】木島平村スキー場オープン



【昭和60年】第1回夏まつり開催



【昭和61年】高速4人乗り第8スカイフォアリフト完成

- 1989 平成元年 ● ホテルの保全で柳久保地区が環境庁の「ふるさとといきもの里」に選定
  - 馬曲温泉いこいの家オープン
  - 大明神砂防ダム完成
  - 樽滝地籍道路橋梁改良工事完成
  - 第10ペアリフト完成
- 1990 平成2年 ● 自然保護条例を制定
  - スキー場に人工降雪機導入
  - 「からす踊り保存会」設立
  - 雪不足でカヤの平からスキー場に11tダンブ1500台分の雪を運ぶ
- 1991 平成3年 ● 公共下水道第1期計画区認可
  - 望岳荘短期保養施設完成
  - 北部小学校完成(工費7億1633万円)
  - いいやまみゆき農協の合併
  - 防災ダム着工
- 1992 平成4年 ● デイサービスセンター完成
  - 信州バス木島平線運行開始
  - ケヤキの森公園にテニスコート完成
- 1993 平成5年 ● 村行政機関で完全週休2日制始まる
  - 第3セクター木島平観光株式会社設立
  - ケヤキの森公園に多目的屋内運動場完成
  - ふれあいの園事業着工
  - 冷夏で農作物に1億4094万円の被害
  - 国道403号認定される
  - 特定農山村地域に指定される
- 1994 平成6年 ● ケヤキの森公園オープン
  - 山頂リフト夏山営業開始
  - 木島平浄化センター完成
  - 中部小学校完成(工費11億2562万円)
  - 池の平第2ペアリフト完成
  - 干ばつ被害1億617万円



【昭和60年】調布市と姉妹都市盟約締結

- 1985 昭和60年 ● やまびき保育園完成、こぼとみずほ両保育園閉園
  - 調布市と姉妹都市盟約締結
  - 調布市木島平山荘完成
  - 第1回夏まつり開催
  - 収蔵品502点を収めたタイムカプセル記念塔完成
  - 第6ペアリフト沿いにナイター照明施設完成
- 1986 昭和61年 ● 台風15号の集中豪雨で中町、西町区を中心に農地、道路に1億8730万円の被害
  - 昭和57年台風18号の災害復旧で樽川、千曲川堤防工事完成
  - 高速4人乗り第8スカイフォアリフト完成
- 1987 昭和62年 ● 高山盛男氏、第3代村長に就任
  - 南部小学校完成(工費4億6130万円)
  - 農業技術拠点施設(グリーンセンター)完成
  - 内山手すき紙体験の家完成
  - 第1号名誉村民に湯本安正前村長
- 1988 昭和63年 ● 「わが村は美しく運動」スタート
  - 馬曲温泉公園オープン
  - 第1回木島平村スカイスポーツフェスティバル開催
  - 調布市と災害援助協定調印
  - 学校給食センター完成



【昭和62年】第3代村長 高山盛男



【昭和63年】馬曲温泉公園完成



木島平村60年の歩み

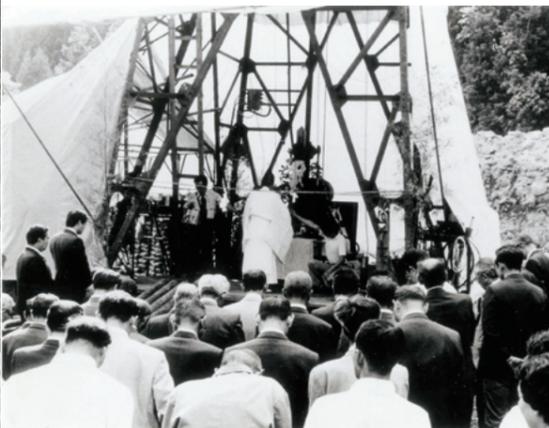
# 1985

# 1994

## 第3次総合振興計画

## 心の豊かさの実現

- 1977 昭和52年 ● 2年連続の豪雪で災害救助法の適用を受ける
  - 奥志賀スノー林道完成
  - カヤの平高原へ夏期臨時バス運行
  - 北部小学校で火災
  - 部落解放同盟長野県連合会木島平村支部設立
  - 南部駐在所、庚から大町へ新築移転
- 1978 昭和53年 ● ひまわり保育園完成、あさひ・あいおい両保育園閉園
  - 村営バス運行開始
  - 常陸宮殿下ご夫妻、望岳荘をご慰問
  - 村消防団、消防庁長官賞(竿頭綬)受賞
  - 村道2号線(大沢～大橋線)改良工事完成
  - やまびこ国体炬火リレー行われる
- 1979 昭和54年 ● 中央グラウンド完成
  - 中学校新校舎完成(工費3億6275万円)
  - 同和集会所完成
  - 第1回交通安全全村民大会開催
  - 結婚相談所開設
  - ロータリー除雪車購入
  - 第3スキーリフト延長
- 1980 昭和55年 ● 中央グラウンドに夜間照明施設完成
  - 第1回村民祭開催
  - 冷夏で農作物に1億800万円の被害
  - 山口橋の改良架替え工事完成
- 1981 昭和56年 ● 台風15号で樽川・馬曲川が氾濫、総額2億1000万円の被害
  - 栄村との村界確定
  - 新保養所に野沢温泉「かど屋」を借り通年開所
  - 防災行政無線局が開局
- 1982 昭和57年 ● さくら保育園完成、すみれ・ふたば両保育園閉園
  - 台風10号で2億2600万円、台風18号で5億4700万円の被害
  - 堆肥製造施設完成
  - 馬曲温泉掘削開始
  - 台風18号時の活躍で村消防団に建設大臣表彰
- 1983 昭和58年 ● 若者センター完成
  - 台風10号で家屋や農地に被害
  - 第6ペアリフト完成
  - 議員定数2名削減し16名とする
- 1984 昭和59年 ● 4市村による岳北農業共済組合発足
  - 新農業構造改善事業特別型事業に指定される
  - 第7ペアリフト完成
  - 馬曲温泉野天風呂オープン
  - 39年ぶりの豪雪



【昭和57年】馬曲温泉掘削開始



【昭和54年】少年少女マラソン大会



【昭和55年】第1回村民祭



【昭和57年】台風18号災害 飯山市木島水没



【昭和58年】台風10号で家屋や農地に被害

木島平村60年の歩み

# 1977

# 1984

## 第2次総合振興計画

## 自然災害を乗り越えて



【平成23年】ルクセンブルク芸術家活動拠点に関する盟約の締結



【平成17年】ディーキルシュ中等学校と姉妹校盟約を締結



【平成24年】おひさま保育園開園

- 2011 平成23年 ● ルクセンブルク芸術家活動拠点に関する盟約を締結
- 八丈町の小学生との交流が始まる
- 3.11東日本大震災、3.12長野県北部地震が発生
- 地上デジタル放送開始
- 平成23年度瑞穂の国美味しいお米コンクール関東甲信静大会inきじま平開催

- 2012 平成24年 ● 「おひさま保育園」開園
- 名誉村民湯本安正さん逝去
- 全国村長サミットin木島平を開催
- 馬曲温泉開湯30周年
- 第14回米・食味分析鑑定コンクール国際大会を開催

- 2013 平成25年 ● 「やまぶきハウス」完成、入居開始
- 「かに沢団地」完成、分譲開始
- 村、鯉千地区、金沢大学が集落づくり協定を締結
- ルクセンブルク彫刻作家、ベルトラン・ネイさん来村、創作活動
- 「農村交流館(ふるさと資料館)」オープン
- 消防団ラッパ隊、県大会に出場
- 3市村主催の「第1回北信州ハーフマラソン」を開催

- 2014 平成26年 ● 國學院大學と共同研究教育事業の協定を締結
- 「村民会館」閉館 42年の歴史に幕
- 特別養護老人ホーム「里山の家 木島平」開設
- 早稲田大学教務部と連携・協力に関する協定を締結
- 東京農業大学と地域活性化・教育研究充実のための協定を締結
- 東京大学大学院教育学研究科と協定を締結

- 2015 平成27年 ● 日笠正博氏、第6代村長に就任
- 北陸新幹線飯山駅開業
- 道の駅「FARMUS木島平」オープン
- 桐朋学園と相互友好協力協定を締結

- 2005 平成17年 ● 木島平中学校とディーキルシュ中等学校が姉妹校盟約を締結
- 有線放送に代え、情報通信施設を整備
- 第1回全国和算研究大会木島平大会開催
- 木島平村自立プランを策定

- 2006 平成18年 ● 平成18年豪雪で災害救助法適用
- デマンド交通運行開始
- 北部・南部駐在所が統合され木島平駐在所完成
- 小学校保育所統合等検討委員会が1校1園を答申
- 下高井農林高等学校創立100周年

- 2007 平成19年 ● 芳川修二氏、第5代村長に就任
- 地域包括支援センター発足
- ルクセンブルクの芸術家トゥン・ウェン・マルグさん来村、創作活動

- 2008 平成20年 ● 中部小学校を増築し平成22年4月から新小学校発足を決定
- 副村長に総務省から派遣の戸梶晃輔さん就任
- 第3セクター2社を合併し、木島平観光株式会社が発足
- 内山龍興寺清水が平成の名水百選に認定
- 第1回村ぐるみ総合防災訓練を実施
- 村の新名物を「名水火口そば」と命名
- 新小学校の名称が「木島平小学校」に決定
- 元柳澤萬壽雄村長がルクセンブルク大公国功労勲章を受章

- 2009 平成21年 ● 佐渡で放鳥されたトキが飛来
- 岳北広域行政組合新ごみ処理施設「エコパーク寒川」完成
- 龍興寺清水ペットボトルを商品化
- 農山村交流フォーラムin木島平を開催「農村文明の創生」提唱
- 厳選木島平米「村長の太鼓判」販売開始

- 2010 平成22年 ● 更なる交流のため「調布・木島平交流クラブ」設立
- 南部・中部・北部各小学校で最後の卒業式
- 「木島平小学校」開校
- ルクセンブルク画家、アラン・ジョンソンさん来村、創作活動
- 農村文明塾を設立
- 鬼島太鼓が東京国際和太鼓コンテストで3度目の最優秀賞を受賞
- ファンファーレ隊が結成



【平成22年】木島平小学校開校

木島平村60年の歩み

2005  
2015

第5次総合振興計画〜第6次総合振興計画  
村民と共に歩む道



【平成19年】第5代村長 芳川修二



【平成9年】ジャンプ競技場完成

- 2001 平成13年 ● ルクセンブルク大公国ディーキルシュ市長来村
- 木島平村有機センター完成
- 平和橋が完成
- 特別養護老人ホーム望岳荘移転工事完成
- 若者センター内に「ちっちゃな図書館」完成

- 2002 平成14年 ● ルクセンブルク大使夫人による料理教室開催
- 長野電鉄木島線発着
- ふるさと応援団木島平会発足
- 馬曲温泉入湯者300万人突破
- ふう太児童の川普請始まる

- 2003 平成15年 ● 飯山市・野沢温泉村との3市村合併問題研究会発足
- 精神障がい者憩いの家「フレンズ」開所
- 木島平ジュニアサッカー場オープン
- やまびこの丘公園内にグリア園完成
- 調布市にアンテナショップ「新鮮屋」オープン

- 2004 平成16年 ● 村議会3月定例会で「合併はせず、自立の村づくりを進める」ことを宣言
- 「有機の里づくり」が農林水産大臣賞受賞
- ルクセンブルクから中等学校生来村、村内でホームステイ
- 木島平ジュニアサッカーフェスティバル開催
- 馬曲「郷の家」完成
- 台風23号直撃、宮ノ市・市之割沖・谷地などが冠水
- 中町展示館完成



【平成15年】木島平ジュニアサッカー場オープン



【平成15年】アンテナショップ「新鮮屋」オープン



【平成8年】根塚遺跡から鉄剣出土



【平成7年】第4代村長 柳澤萬壽雄

- 1995 平成7年 ● 柳澤萬壽雄氏、第4代村長に就任
- 村のシンボルマーク決定
- 保健センター着工
- 大塚沖再圃場整備着工
- 村の木「けやき」制定
- ホテル・シュエネスバベル完成
- 池の平第1クワドリフト完成

- 1996 平成8年 ● 保健センター完成
- 出前デイサービス始まる
- 村営バス廃止
- 根塚遺跡から弥生時代の鉄剣出土
- 農業振興公社発足

- 1997 平成9年 ● 第1回木島平カップ国際スキーアーチェリー大会開催
- 診療所新築工事完成
- ジャンプ台完成

- 1998 平成10年 ● 長野オリンピック・パラリンピックの聖火リレーが行われる
- やまびこの丘公園完成
- 根塚遺跡から弥生時代の「大」と刻まれた土器を発見
- 上木島防災ダム完成
- 第3セクター、パノラマランド木島平開業
- ルクセンブルクのアンリ皇太子夫妻来村

- 1999 平成11年 ● クロスカントリー競技場完成
- 樽川ポケットパーク完成
- 長野県木と緑のふれあいフェスティバルが開催
- 介護保険制度スタート
- 高齢者福祉総合センター「福寿苑」完成
- 国際フォーラム「根塚遺跡と加耶」開催
- 消防団南部分団第2部、ポンプ操法大会で32年ぶりに県大会出場
- 戸籍がコンピューター化

- 2000 平成12年 ● 消防団南部分団第2部、ポンプ操法大会で32年ぶりに県大会出場
- 戸籍がコンピューター化



【平成11年】クロスカントリー競技場完成

木島平村60年の歩み

1995  
2004

第4次総合振興計画  
自然劇場 きじま平

村歌

栄え行け 木島平よ

作詞/小出ふみ子  
作曲/川崎祥悦

一、豊かなる 千曲の流れ 西に見て  
高社、ゆるやかに たなびくところ  
わが夢のふるさと 木島平よ  
おお ちちははの村 花ひらく

二、清らかに 泉は湧きて ほたる飛び  
大空が 澄み渡る 希望の朝は  
わがちからためさん 木島平よ  
おお たのもしき村 遠い雲

三、健やかに 自然の恵み 身に受けて  
野に山に しあわせの 緑はつづき  
わが友はほほえむ 木島平よ  
おお うるわしき村 栄え行け

木島平村民憲章

私たちは、奥信濃の自然の恵みと、先人の遺徳に感じ、木島平村を明るく、ゆたかな村にするため、この憲章を定め、くらしのよりどころとします。

- ◎自然を愛し、環境をととのえ、きれいな村をつくります。
- ◎生産にはげみ、豊かで、しあわせな家庭をつくります。
- ◎心のふれあいを深め、連帯感にみちた村をつくります。
- ◎からだをきたえ、心をゆたかに、活力のある村をつくります。
- ◎教育を尊重し、知識を求め、創意にあふれる村をつくります。

村木



けやき

村章



村花



福寿草

村制施行60周年記念 木島平村勢要覧

発行日/平成27年10月15日  
発行/木島平村 〒389-2392 長野県下高井郡木島平村 TEL. 0269-82-3111 FAX.0269-82-4121 <http://www.kijimadaira.jp>  
印刷/カシヨ株式会社



木島平村が誕生して60年、この間、第1次から第5次まで、時代の変化や要求に応じた総合計画を立て、村づくりを進めてきました。そして今、日本全体が人口減少という、未知の世界に突入しています。そのような中で、いつまでも住み続けたい村、住み続けることができる村、そしていつでも故郷として帰ることができる村を目指し、基本目標は「これからの農村を生きる」としました。今回の第6次総合振興計画は、10年後の木島平村の将来像を多くの村民の皆さんの協働作業で作上げたものです。サブテーマは、「みんなで楽しみを作り出す」です。これまで培われてきた農村の絆を大切に、楽しみながら自信と誇りを持てる村づくりを目指します。

木島平村長 日基正博

議会



住民の代表である村議会議員は10人。村議会は年4回開催される定例会と、必要に応じて開催される臨時会議があり、村の基本方針や予算、条例などを審議・決定しています。各議員はそれぞれ総務民生文教・産業建設の常任委員会に所属し、議案や請願などの審査を行います。

限られた財源の中で、住民の声を活かし、いきいきとした暮らしを実現するため、村議会の役割はきわめて重要なものです。

三役



左から 内藤克彦副村長 日基正博村長 丸山幸一教育長